

の名を分てること、億計王と弘計王との例の如し、大小の意なるべし、

〔古事記中〕此天皇略娶山代大國之淵之女、荊羽田刀辨又娶其大國之淵之女、弟荊羽田刀

辨

〔古事記中〕此天皇娶吉備臣等之祖、若建吉備津日子之女、名針間之伊那毘能、大郎女中又娶伊

那毘能大郎女之弟伊那毘能若郎女字以音

〔日本書紀十五〕二年十一月、依大嘗供奉之料、遣於播磨國司山部連先祖伊與來目部小楯、於赤石郡

縮見屯倉首忍海部造細目新室、見市邊押磐皇子子億計賢弘計宗畏敬兼抱、思奉爲君、奉養甚

謹、以私供給

○按ズルニ、古事記ニ億計ヲ意富祁ニ作り、弘計ヲ袁祁ニ作ル、億ト云ヒ意富ト云フハ大ノ義

ニテ、弘ト云ヒ袁ト云フハ小ノ義ナリ、

〔續修東大寺正倉院文書三〕御野國加毛郡半布里大寶二年戶籍

下々戶主彌蘇年五十二正

戶主弟目里年冊七正

目里弟小目里年冊二

嫡子廣年十一

次小廣年九小

下々戶主安多年六十五一

嫡子志比年冊一

次小志比年冊

次身麻呂年冊三

次小身年冊一

〔菅家文草四〕訓藤十六司馬對雪見寄之作略

訓藤六司馬幽閑之作略

〔大鏡六〕內大臣道隆略男君達は太郎君、故伊與守知仁のぬしの女のはらにぞかし、大

千與君、それは祖父おと兼家の御子にゑたてまつり給ひて、道賴六郎君とこそは申しか、中

略今一所は小千與君道賴異母弟伊周とて、後ほかはらの大千與君には、こよなくひきこし、廿一におは